

「完全無煙環境」で開催

第2回互参会函館2016を

53回卒は全員登録の正式のクラス会「53会」を卒後50年で解散し、以降は希望者のみ登録の観光と食事の会「互参会」を、2015年の横浜でスタートした。

第2回互参会2016は函館で開催と決まり、森山が幹事に指名され、1年半前から準備を始めた。ホテルは朝食日本一と、そのおいしさがランクされている「ラビスタ函館ベイ」を1年前から予約。

計画では、北海道新幹線開通間もない2016年5月10日に、桜満開の函館で多くの級友を迎え、翌日は函館地方並びに道南地方、即ち、日本が鎖国から開国へと動いた歴史の跡（戦場）をバスでぐるりとたどる旅を考えた。徳川時代に最後の砦として北海道に新しい国「エゾ地」を造るべく、榎本武揚率いる3,000人が、当時世界一の軍艦「開陽丸」など7隻の船で上陸したのが森町で、青葉公園には仙台から移植した桜が満開の予定であった（森町は駅弁の「イカめし」でも有名）。

観光はその後「しかべ町の間欠泉」へ向かう。ここは九州・別府と同じく100℃の熱湯を高さ15mまで5分間隔でゴーという大音響とともに吹き上げ、側でゆで卵を作ることにも可能である。また、ゴルフ愛好家の皆さんには、近くの大沼公園にある北海道カントリークラブ大沼コース（55年前に

西武鉄道が造ったコースで、18H、7,330ヤード、パー73のチャンピオンコース）で、プレーを楽しんでもらう予定だった。

ところが、10日の夜から降り出した雨は、11日には風も伴いますます激しく台風のような風雨となってしまった。残念ながら初日予定の道南バス旅行はすべて中止となり、ゴルフも中止になった。返す返すも残念だが、天気だけはどうしようもない。バス会社と相談し、函館市内の車窓観光と昆布館、ワイン館などではショッピング、そして函館山は外せないのバスで登った（ケーブルでゆっくり楽しんでもらう予定だった）が、当然ながら雨雲でほとんど何も見えなかった。

夜は35名が五島軒に集い、互参会総会・交流会が開かれた。料理はもちろんロシア料理のフルコースである。五島軒には歴史がある。五稜郭に布陣を張り、明治政府と対立し、松前城を攻略、一時は進出した榎本武揚だったが、開陽丸が大嵐にあい、戦いは1年で終戦となった。この時、新選組副長の土方歳三を失った。その後、幕軍の一人だった五島氏が、明治政府の戦犯狩りを逃れ、ロシア教会でロシア料理を学び、明治はじめにロシア料理店を開店した。これが五島軒である。互参会の35名は、函館の歴史を感じ、珍しいロシア料理を味わい



参加者一同（ラビスタ函館ベイ）



ながら、久しぶりの面々と会話を楽しんだ。

翌日12日は雨も上がり、早朝5時過ぎに函館朝市へ向かった。市場では、ヤリイカ釣り、エビの踊り食い、朝からビールを飲み楽しむ。

次はバスツアー。トラピスト修道院を見学した。ここは男性のみが見学を許されるが、内部に入れるのは月曜日だけだった。修道僧は木靴を履き、頭上から下まですっぽりと黒い衣装。

自給自足のため、修道院の周りには畑があり、牛等がおり小さな家もある。この家は長年修道したものが妻帯を許されている。桜は満開だった。

有名なトラピストクッキー、トラピストバターがある。売店があり、販売されている。皆様、地方発送したようだ。

旅行は順調に進み、海底トンネル記念館を見学し、一路バスは大間のマグロで有名な松前へ向かった。この松前は最北の城下町であり、桜でも有名である。天気も良かった。

桜は満開で250種1万本1ヵ月咲いて城を取り囲んでいる。ここの昼食は珍しく、殿様の婚礼時の料理が大間のマグロ付きで

出された。

その後、江差いにしえ街道をバスで見学。江差追分会館では有名な実演を皆さんと声を合わせて歌った。

函館に戻り、夜は特別注文のフレンチ風寿司店で美味でめずらしい夕食をとった。その後、晴れた函館山へ登った。

今回の互参会では自由に歩ける時間を多くとった。11日の台風のような日以外は、2日目から晴れた。

13日の昼食は、北海道で一番古いすき焼き店「阿さ利」だ。120年前の古い建物の2階で、希望者20名で素晴らしく美味しい牛肉と、大間のトロ、マグロを食べた。

朝、昼、夜と酒は欠かせなかった。皆さん後期高齢者であるが、元気だ！ 母校日本歯科大学も元気だ！

ゆったりと流れる互参会、宿の移動もなく、桜見物の旅、北海道道南の食を完全無煙環境で堪能し、大いに楽しんだ。

来年は日光で4月19日に第3回互参会開催。

(互参会2016函館 幹事 森山誠一)